

赤川浩爾先生の追憶

M⑥ 竹嶋健次郎

私と赤川浩爾先生との再会、および神戸大学に提出した学位論文のきっかけを作って下さったのは名古屋航空機製作所で5歳先輩の宇多小路豊(京大院)さんでした。共に開発に参加した通産省工業技術院の大型プロジェクト「ファンジェットエンジン FJR710 開発」にはエンジン3社(IHI,KHI,MHI)、および航空宇宙技術研究所が共同して取り組みました。上記開発は第一期計画(1971~1976)と第二期計画(1976~1982)からなり、エンジン3社内でのMHIの試作シェアは約15%で、第一期計画がスタートした時点では、KHIとMHIが製作を分担した低圧タービンは詳細設計以降の業務を担当した。続く第二期計画では、低圧タービンの基礎設計にMHI案(翼形改良技術、およびタービン性能改良技術)が採用され、航空宇宙技術研究所で上記4段タービンの第2段を供試体に用いた回転リグ試験で、計画通りの流れ、および反動度分布が得られ、断熱効率が第一期(基礎設計をIHIが担当)より2%以上向上し、欧米諸国のファン駆動低圧タービンと同等以上の性能特性を有していることが実証されました。

龍谷大学で赤川先生と宇多小路豊さんが話し合われた際、上記のことが話題になり、赤川先生が神戸大学の出身者も頑張っているようなので論文に纏めるよう勧められたことが学位論文作成の原点になりました。なお、論文作成時には赤川先生から藤井照重教授をご紹介いただき、藤井教授の指導の下で論文を完成させました。

博士の専攻分野：博士(工学)

学位記番号：博士ろ第151号

学位授与の日付：平成9年3月11日

学位論文題目：2軸ガスタービン、および低圧タービンの性能特性に関する研究

定年退社直後の学位論文作成着手と、阪神淡路大震災とが重なり、赤川先生のご自宅も被害を受けられておられたにも関わらず、赤川先生から懇切丁寧なご指導を頂きました。この時期に先生がよく口にされていたのは技術の伝承の重要性でした。私にも「技術者としての自分史」を纏めるように勧めてくださり、これが「ガスタービンについての回想」に、また会社後輩向けに纏めた「ガスタービンの開発とその歴史」(赤川先生から後輩の方々に伝えようとする気持ちがよく感じられるとお言葉をいただきました)や、「航空ガスタービン整備事業の技術課題について」等々にもつながり、いい思い出になっています。改めて赤川先生のご冥福をお祈りするとともに感謝の念を捧げます。

(終)